「愛のうちに」

~行いの伴う生き方~

I コリ13:1-13、エペソ2:8-10、ヤコブ2:8-26

フィリピンというのは非常に貧富の差があります。フィリピンは公用語は英語で。もう一つタガログ語という言葉があり、原住民の方はだいたい喋れますが、英語を喋れないと企業には就職出来ません。豊かな人は学ぶことが出来ますが、リバーサイド(貧困街)のエリアにいる人たちは学校に行くこともない訳です。そこで生まれて生涯そこで育ち、生涯1日1ドル以下で生活していく訳です。一生そこから抜け出すことが出来なくて、その連鎖は生涯代々続きます。ところがはらにイエス様の福音を伝えるといっぺんに 500 人くらい集まって、本当に歩けなかった人たちが祈ると立って歩けるようになったり、神様の前に飢え渇いて本当に素晴らしいことがおきます。そして教会で行う学校に来て、人生が変わって行くのです。何故かというと、彼らは自分の代でこんな生活を終わらせたいと真剣に願っている訳です。ですから決断して変わるのです。

愛のうちに

を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なざい」(マルコ 8:34)自分の十字架とは何でしょう。あなたの周りにいる多くの痛んだ人たちの痛みを共に背負ってあげるということです。多くのクリスチャンの周りにいる人たちは「何故この人は私の隣に寄り添って励まして助けてくれるのだろうか」と言って教会に来ます。それはその人がイエス様にそうされたからです。何の得も利益事です。とれるがクリスチャンは保証をするというです。何の得も利益事です。してもらったからです。愛された通りに愛そうとするだけです。エペソ 2:8~10 は信仰義人が書かれたローマ書です。信仰によって救われるのであって、行いによるのではないと言っている箇所です。しかしヤコブ書を見るとした可とを言っているのではないと言ったが書かれていません。信仰ととを言っているのではと勘違いしますが、そうではありません。信じるという事はを行いによるのではと助違いしますが、そうではありません。信じるという事はをによって私たちはそれを信じ、自らを省みて悔い込めた時に 100%救われます。それに行いがあろうとなかろうとです。ですがあなたのその与えられた愛は行いを通してでしか流れません。その事をよく覚えておいて欲しいのです。だからを運していても、もしキリストの犠牲がなかったら神の愛は私たちには分かりません。でも彼か犠牲を払ったからその愛が分かったのです。彼が流されたその愛から私たちはそいを学ばなければいけません。

死んでいるものということは どういうことかでしょうか。

まとめ